

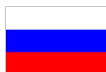
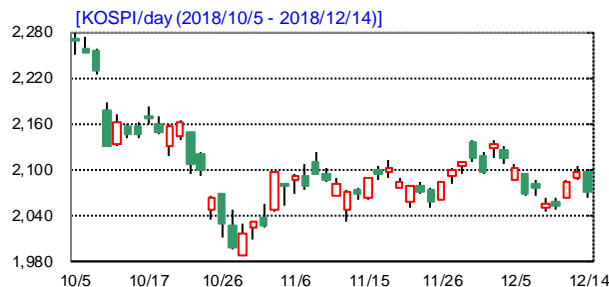


【韓国】 総合指数は 0.3%安と続落、今週は米 FOMC の動向に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.3%安と続落。米株相場や米中通商問題などを材料にやや荒い値動きとなった。週明け 10 日は前週末の米株安を受けて 1%超の下落となり、終値ベースでおよそ 1 か月半ぶりの安値を付けた。一方、米中通商問題に対する懸念はやや後退。両国の協議進展への期待が高まる中、カナダで逮捕された華為技術（ファーウェイ）幹部の保釈決定が伝わり、12 日は大幅に反発。翌 13 日には節目の 2100 ポイント付近まで上昇した。ただ、この水準では上値が重く、14 日は 1.2%安と大きく下げている。今週は 18-19 日の米連邦公開市場委員会（FOMC）に注目が集まる。来年の利上げ展望が伝わる中で相場が大きく動く可能性がある。国内では 21 日に 11 月の生産者物価指数（PPI）が発表される予定。

▼指数チャート

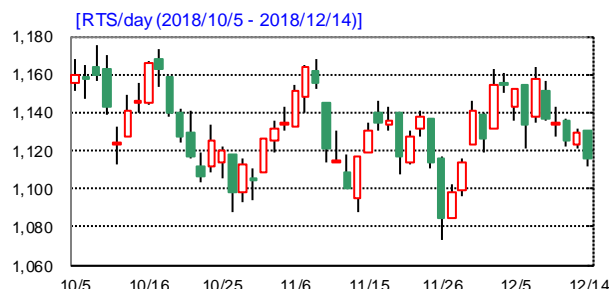


【ロシア】 RTS 指数は 3.6%安と 3 週ぶり反落、今週はルーブルの先安観が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 3.6%安と 3 週ぶりに大幅反落。景気減速懸念に伴う米国株やアジア株の下落を受けて軟調にスタートすると、週末にロシア中央銀行が外貨購入の再開を発表したあおりでルーブルが下落し、株価も下落幅を広げた。週明け 10 日は RTS 指数が 1.9%安と反落。前週末に OPEC とロシアなどが原油減産で合意し、ブレント原油相場が上昇したものの、米国株やアジア株の下落を受けてロシア株も売り優勢で始まった。その後は週末のロシア中銀の政策決定会合を控え様子見が続いた。政策決定会合では政策金利が 0.25%に引き上げられたが、外貨準備のための外貨購入を来年 1 月 15 日から再開するとの決定でルーブルが売られ、RTS 指数も 1.1%安と反落した。今週はルーブルの先安観が上値の重しとなるか。

▼指数チャート



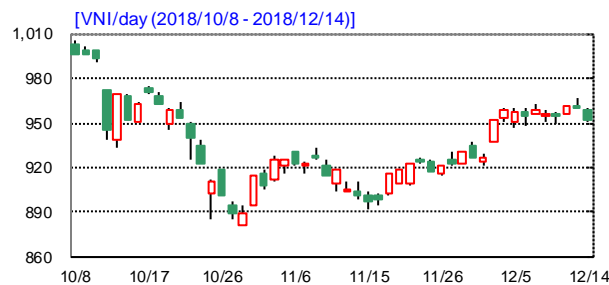
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.7%安と 4 週ぶり反落、今週は景気減速懸念で伸び悩み

悩み

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.7%安と 4 週ぶりに反落。米中貿易摩擦の長期化懸念が続く中、中国の経済指標の悪化を受けて景気減速懸念が強まり、週を通しておおむね軟調な展開が続いた。10 日は中国の 11 月の輸出が市場予想を大きく下回ったことやナバロ米大統領補佐官による対中追加関税に関する発言が嫌気され、指数は 0.3%安と軟調で、11 日も 0.1%安と小幅に続落。12 日はトランプ米大統領が米中協議への楽観的な見方を示し、0.7%高と反発したが、14 日は中国の 11 月の小売売上高が 03 年以來の低い伸びとなる中、米中関係の悪化が再び意識され 0.9%安と下落して終了。特に不動産株や金融株が下落し、指数は約 2 週ぶりの安値水準となった。今週は世界的な景気減速懸念や米中問題が引き続き上値圧迫の要因となるか。

▼指数チャート

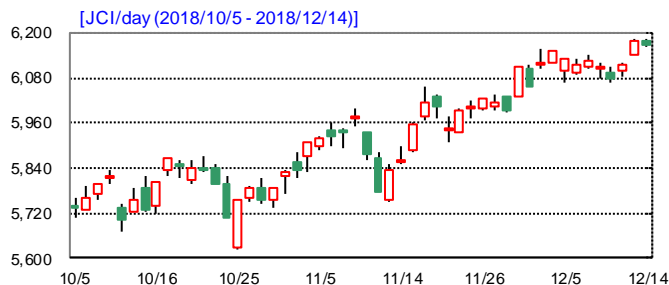


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.7%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 0.7%高と 3 週続伸。週前半は軟調だったものの、その後の回復が奏功した。週初の 10 日は 10 月の小売売上高が市場予想を下回ったことなどが嫌気されて反落。11 日も続落したが、12 日に反動で買われると、13 日は貿易問題を巡る米中の緊張緩和への期待感が広がった効果で、指数は終値で約 8 カ月ぶりの高値を更新。ただ、14 日は小幅に反落して引けている。今週は 17 日発表の 11 月の貿易統計の内容が焦点になるほか、20 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開く予定。外部要因では 18-19 日の米 FOMC で示される今後の利上げペースの見通しが相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

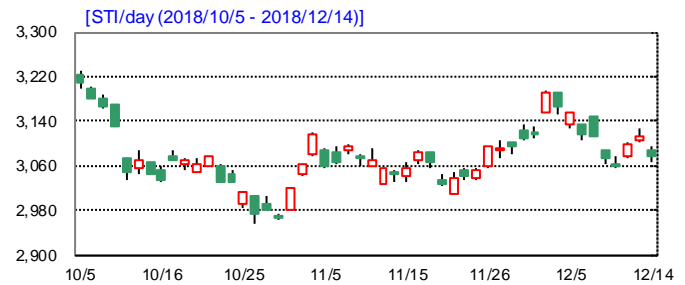


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.1%安、今週は 11 月の非石油地場輸出が焦点

スレーツタイムズ指数は週間で 1.1%安と続落。不安定な値動きが続いた 1 週間だった。週初の 10 日は世界的な景気減速に対する警戒感の広がりを受け、指数は前営業日比 1.2%安。11 日も売り優勢の展開が続いたが、12 日は中国の華為技術の副会長が保釈されたことによる米中関係改善への期待感から買われ、前日比 1.3%高と 7 営業日ぶりに反発した。13 日は中国による米国産大豆の大量購入が好感されて続伸したが、14 日は中国の 11 月の鉱工業生産と小売売上高が市場予想から下振れた影響で前日比 1.1%安と反落して引けた。今週は 17 日発表の 11 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

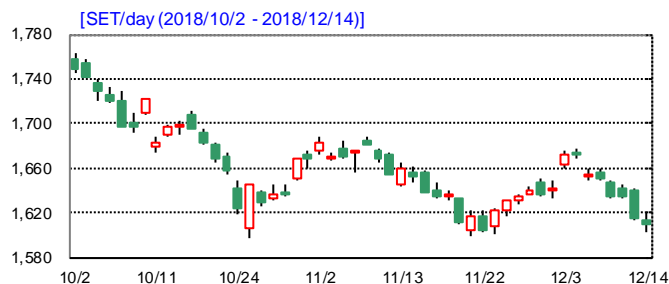


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.5%安、今週も原油価格の動向が指数を左右する展開か

SET 指数は 4 日間の取引で 2.5%安と 3 週ぶりに反落。エネルギー株の下落が痛手となった。連休明けの 11 日は前日の NY 市場での原油先物の値下がり嫌気され、指数は前営業日比 1.0%安。12 日は小幅に反発したものの、13 日はドバイ原油のスポット価格の下落を受けて、前日比 1.2%安と反落した。14 日には終値で約 3 週間ぶりの安値を更新している。市場では中国の景気減速による原油需要の減退が警戒されており、今週も原油価格の動向が焦点になりそうだ。国内の経済イベントでは 19 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、20 日には 11 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。

▼指数チャート

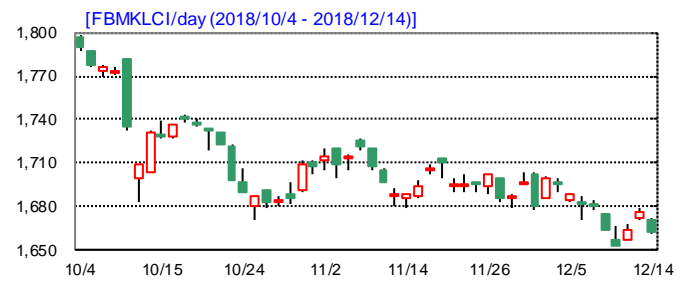


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.1%安、パーム油在庫の増加でプランテーション株が下落

クアラルンプール総合指数は週間で 1.1%安と反落。週前半の続落が指数を押し下げた。週初の 10 日は、11 月のパーム油の在庫量が前月から 10%増加した影響でプランテーション株が売られ、指数は終値で前営業日比 1.0%下落すると、11 日には 17 年 1 月以来の安値を更新。一方、12 日は米中関係の緊張緩和に加え、10 月の鉱工業生産が市場予想から上振れたことが好感されて 7 営業日ぶりに反発した。13 日も続伸したが、14 日は金融株のほか、インドでの病院買収計画が同国の最高裁の決定により延期となった IHH ヘルスケアが売られ、反落して引けた。今週は 19 日に 11 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。